

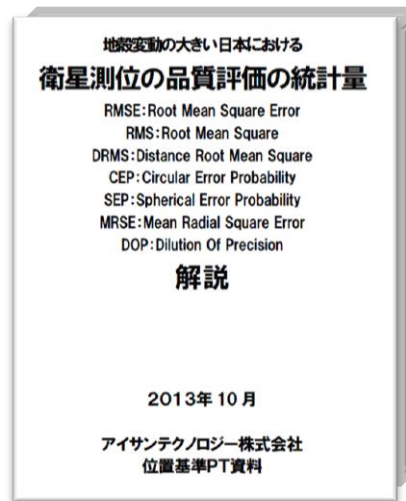
最終日を迎えた「第20回 ITS世界会議 東京2013」に係る速報レポートです。最終日も自動車関連業界の方を中心に、官公庁から一般の方も、多数の御来場をいただきました。当社ブースでは、モバイルマッピングシステム(以下、MMS)にて取得した高精度三次元地図データを、様々な分野での利用シーンや、準天頂衛星に係る技術をご紹介を継続的に行いました。

本レポートでは、MMSとともに出展しておりました準天頂衛星「みちびき」に係る内容を報告いたします。本展示に関しましては、当社が創業来44年間培ってきました高精度位置情報計算技術を基礎に、準天頂衛星「みちびき」から提供される位置情報の信号を用いて新たな測量技術の研究を先行して行ってきた実績とともに、その技術の転用としてITSの分野でもご利用いただける実証ツールをご紹介いたしました。またISO、JIS及び測量法に基づく「地殻変動の大きい日本における衛星測位の品質評価の統計量解説」と題した技術書も展示し、当社の技術力のアピールを行いました。

4日間の出展期間中に400名強の方と面談し、多くの方に当社の事業内容、技術をお伝えすることが出来たものと考えております。近日中には改めて本会議出展総合レポートも公開予定ですので、今しばらくお待ちください。



【当社展示ブース全体】



【「衛星測位の品質評価の統計量解説」展示パネル】



【準天頂衛星の利用実証ツールに係る展示パネル】

#### 【免責とお断り・注意事項】

本通信及び弊社ホームページの記載事項は、株主・投資家の皆様お客様に対し、迅速な情報公開・提供を目的とし、投資勧誘を目的としているものではありません。掲載内容被った損害については、当社は一切の責任を負いかねます。

# 地殻変動の大きい日本における ISO・JIS・測量法に基づく衛星測位の 品質評価の統計量解説

- 「RMSE」、「DRMS」、「RMS」、「DOP」など、衛星測位の品質評価として使用される指標を、ISO、JIS、及び公共測量「作業規程の準則」の視点からも、詳しく解説します。
- 国の基本図に影響する公的な「地殻変動補正パラメータ」についても詳しく解説します。
- 本解説書は、弊社の技術情報・業界トピックス配信をメインとした会員サービス「interATM'S（インターアトムス）倶楽部」にて、ご提供を予定しております。

衛星測位の品質評価では、従来の測量で使われてきた標準偏差やRMSEとは異なった統計量も使われて来ている。例えば、「DOP: Dilution Of Precision」, 「DRMS: Distance Root Mean Square」及び「RMS: Root Mean Square」等である。

公共測量では、測量成果の品質の評価に正確度(accuracy)が使われ、測地学の教科書においてその統計量が定義されている。ISO 19114は「RMSE(Root Mean Square Error)」とし JIS X 7114は、「RMS 誤差」と日本語化している。RMSEでは、再現性(repeatability)と合わせてバイアス(bias)の評価が行われる。

日本の衛星測位の中心機関であるJAXAのHPで、「RMS」の統計量が示されている。衛星測位関係では、異常値棄却後の標準偏差相当の統計量である「RMS」が、正確度の統計量として使われているようである。

地殻変動が大きい日本列島における衛星測位結果は、バイアスの評価が可能である「RMSE」が有効である。従来測量で使われてきた統計量と合わせ、衛星測位における品質評価の内容を解説してある。